

2010/2/8

柏の景気情報（平成22年1月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成22年1月分）

○ 調査期間 : 平成22年1月18日 ~ 1月22日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	72	67.3%
建設	19	15	78.9%
製造	23	17	73.9%
卸・小売	43	28	65.1%
サービス	22	12	54.5%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成22年1月の調査結果のポイント】

〈業況DIは大幅にマイナス幅縮小 依然としてデフレの影響あり〉

○1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲44.4(前月水準▲59.2)となり、マイナス幅が△14.8ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同▲41.1)、建設業▲53.3(同▲73.3)、卸小売業▲60.7(同▲68.9)、サービス業▲41.6(同▲46.6)であり、特に、製造業はマイナス幅が△29.4ポイントと大幅に縮小した。

【建設業】では、「良い兆しはなにもありません」(一般土木建築工事業)、「業界も変わらなければいけない。公共投資がこれほど多いのは日本だけ」(土木工事業)、「1件の仕事を受注するためには、今まで以上に見積もり作成や交渉に時間がかかり、結果残業時間は長く人件費も多くなっています。それでも利幅はほとんどなく、採算減少になってきています」(管工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「受注は前年に比較して増加ではあるが、比較対象である前年の状況が底ではあるので、現在もまだまだ悪化の状況である」(その他の鉄鋼業)、「ここ数年は年度末へ向けての完成物件が少なくなっているため、平年月と売上がほぼ同じである」(一般産業用機械設備製造業)、「お客さまからの設備導入の声が少なく、かつ低価格の要求も一層つよくなり、非常に厳しい状況が続いている」(その他の機械・同部分品製造業)などの声が上がってきた。

【卸小売業】では、「デスク上の経済対策と現場とでは、かなりずれがあると思います」(食料・飲料卸売業)、「経費の削減をさらに強化する。チラシ、配布枚数の削減や配布エリアの見直し」(その他の各種商品小売業)、「原油が再高騰してきている。寒さが続くと高値基調の相場で落ち着く感あり。安値売り込みは相変わらずだが、仕入れコストを吸収する余力は乏しい。今は経費の点からもコストは確実に転嫁し金銭的にも体力を維持することが大切である」(燃料小売業)、「販売品目の独自路線の徹底で売り上げが好転してきた」(書籍・文房具小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「昨年の忘年会から新年会の予約は前年同様にはあったが、フリーのお客様の大きな減少があり。外食に関してお客様の利用回数「常連」が減っている」(酒場・ビヤホール)とコメントがあった。

◎デフレの悪循環

各業種から、「景況悪化の要因は、マクロでは少子高齢化による個人消費のボリュームの縮小が背景にあり、これに世界的なレベルでの景気の悪化、家計収入の停滞、デフレによる価格競争がその要因と考えます」(百貨店)、「デフレの悪循環が続き、安売り競争に巻き込まれている企業は売上採算ベースを割り込んでいるように思う。新しいイベント・フェアに力を入れている」(各種食料品小売業)、「昨今の激しい経済情勢はすべての企業に影響し、生き残るための戦略を早急に立案実行しなければならない。景気向上は深刻なデフレ不況から抜け出せないため、まだ消費の伸びは期待できない」(食料・飲料卸売業)、「デフレの影響が色濃く、収益を悪くしている。この状況はしばらく続くものと思われる。カジュアルな商品は若干動いているが、高額商品を中心に売り上げ不振である」(その他の各種商品小売業)などの声が上がっていた。

◎売上減少

各業種から、「セールは買い控えにより前年を大きく下回る推移となり、昨年対93.5%と非常に厳しい結果。内容的には、午後から夕方にかけての入館が伸びず、OL顧客の慎重な買い回りが見られたことに加え、単品買いが目立ったことから、衣料品を中心に苦戦する店舗が多かった」(各種商品小売業)、「新年会等の利用が前年比65%に落ち込んでいる」(公衆浴場業)などのコメントがあった。

◎先行き不安

各業種から、「現状は適正な受注だが4月以降に不安を感じる」(板金・金物工事業)、「工事価格・仕入れ単価の下落は落ち着いてきた。年度末(3月末)の工事元請け企業からくる連鎖倒産が心配。現況は末端の企業努力と犠牲にあるので早急な対策を望んでいる」(電気工事業)などのコメントがあげられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲53.9	▲57.1	▲50.0	▲62.0	▲40.0
9月	▲56.0	▲50.0	▲62.5	▲62.0	▲42.8
10月	▲57.1	▲71.4	▲58.8	▲63.3	▲31.2
11月	▲62.6	▲66.6	▲75.0	▲66.6	▲35.7
12月	▲59.2	▲73.3	▲41.1	▲68.9	▲46.6
1月	▲44.4	▲53.3	▲11.7	▲60.7	▲41.6
見通し	▲37.5	▲33.3	▲23.5	▲50.0	▲33.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成22年1月の業況についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲44.4(前月水準▲59.2)となり、マイナス幅が△14.8ポイント縮小した。

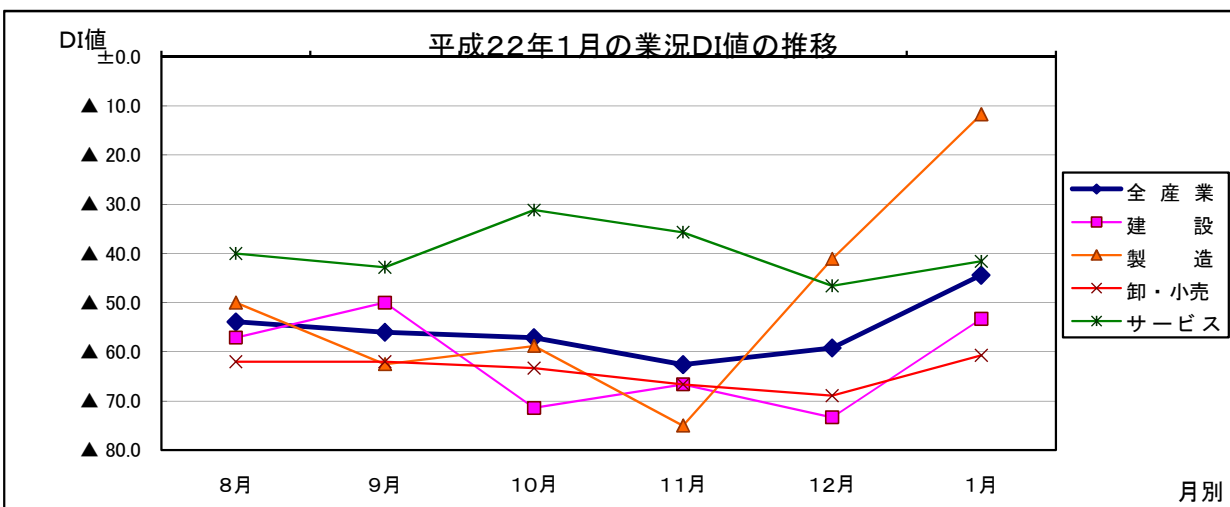
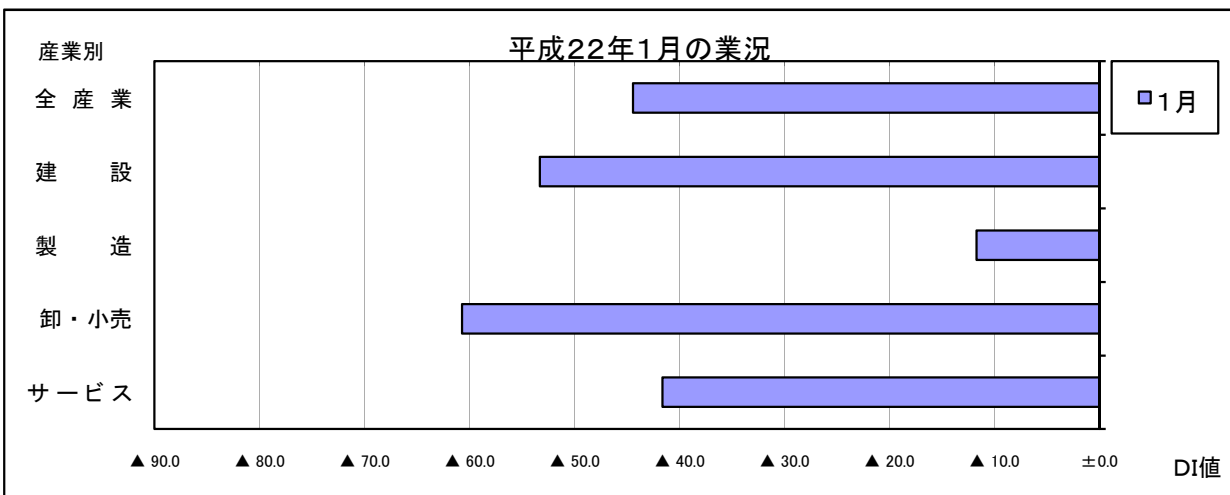
業種別では、前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同▲41.1)、建設業▲53.3(同▲73.3)、卸小売業▲60.7(同▲68.9)、サービス業▲41.6(同▲46.6)であり、特に、製造業はマイナス幅が△29.4ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲35.7(前月水準55.2)となり、マイナス幅が17.7△ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が縮する見込みであり、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲73.3)、製造業▲23.5(同▲47.0)、建設業▲33.3(同▲46.6)、卸小売業▲50.0(同▲55.1)、である。特に、サービス業はマイナス幅が△40.0ポイントと大幅に縮小した。

平成22年1月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 8月	9月	10月	11月	12月	平成22年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲53.9	▲56.0	▲57.1	▲62.6	▲59.2	▲44.4	▲37.5(▲55.2)
建設	▲57.1	▲50.0	▲71.4	▲66.6	▲73.3	▲53.3	▲33.3(▲46.6)
製造	▲50.0	▲62.5	▲58.8	▲75.0	▲41.1	▲11.7	▲23.5(▲47.0)
卸・小売	▲62.0	▲62.0	▲63.3	▲66.6	▲68.9	▲60.7	▲50.0(▲55.1)
サービス	▲40.0	▲42.8	▲31.2	▲35.7	▲46.6	▲41.6	▲33.3(▲73.3)



【平成22年1月の売上についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲51.3(前月水準▲60.5)となり、マイナス幅が△9.2ポイント縮小した。

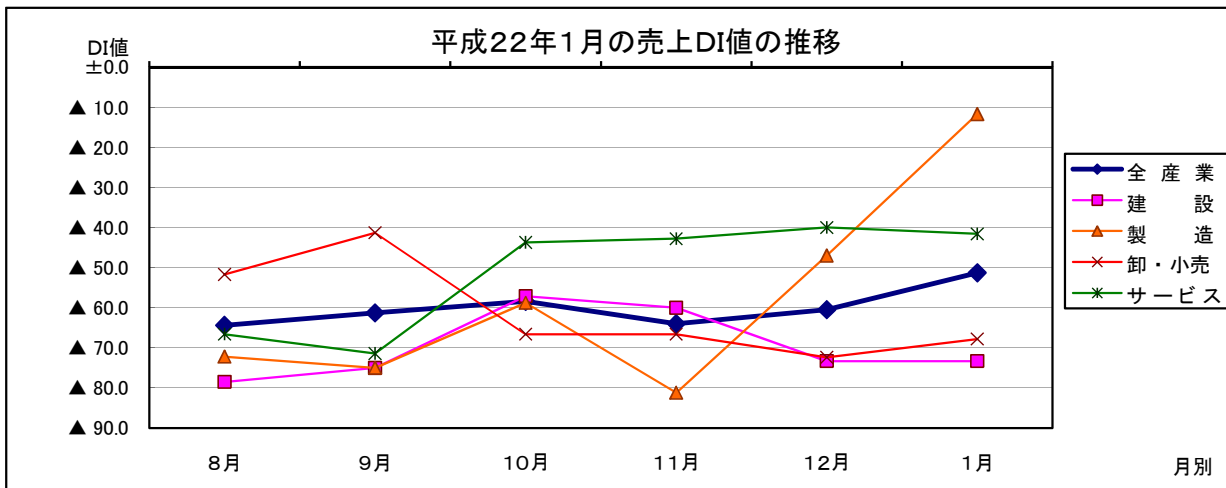
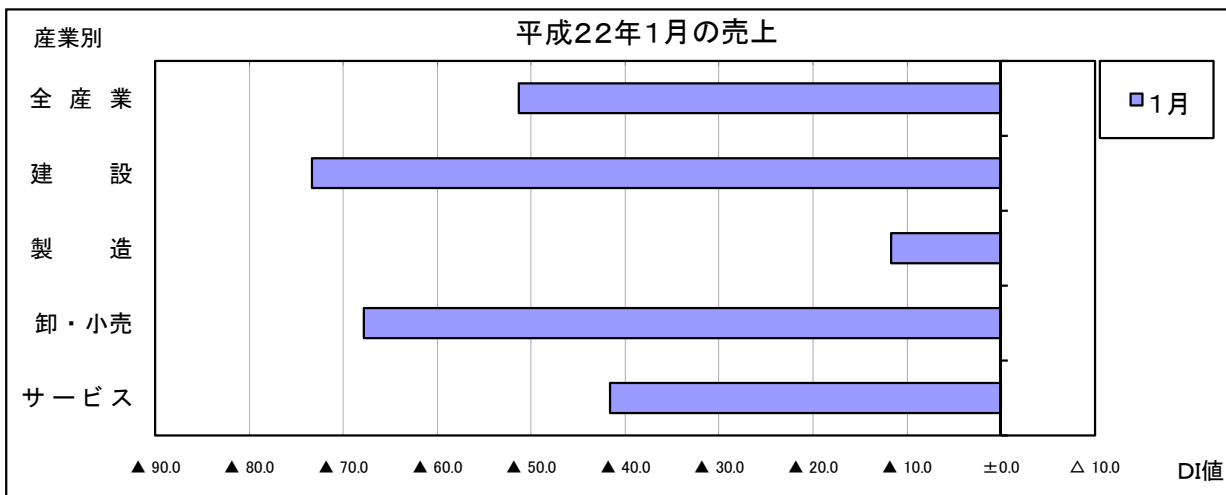
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同▲47.0)、卸小売業▲67.8(同▲72.4)であり、特に、製造業はマイナス幅が△35.3ポイントと大幅に縮小した。ポイントが変わらない業種は、建設業▲73.3(同▲73.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲41.6(同▲40.0)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲36.1(前月水準▲46.0)となり、マイナス幅が△9.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲66.6)、卸小売業▲25.0(同▲44.8)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△33.3ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲60.0(同▲46.6)、製造業▲35.2(同▲29.4)である。

平成22年1月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 8月	9月	10月	11月	12月	平成22年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲64.4	▲61.3	▲58.4	▲64.0	▲60.5	▲51.3	▲36.1(▲46.0)
建設	▲78.5	▲75.0	▲57.1	▲60.0	▲73.3	▲73.3	▲60.0(▲46.6)
製造	▲72.2	▲75.0	▲58.8	▲81.2	▲47.0	▲11.7	▲35.2(▲29.4)
卸・小売	▲51.7	▲41.3	▲66.6	▲66.6	▲72.4	▲67.8	▲25.0(▲44.8)
サービス	▲66.6	▲71.4	▲43.7	▲42.8	▲40.0	▲41.6	▲33.3(▲66.6)



【平成22年1月の採算についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲48.6(前月水準▲50.0)となり、マイナス幅が△1.4ポイント縮小した。

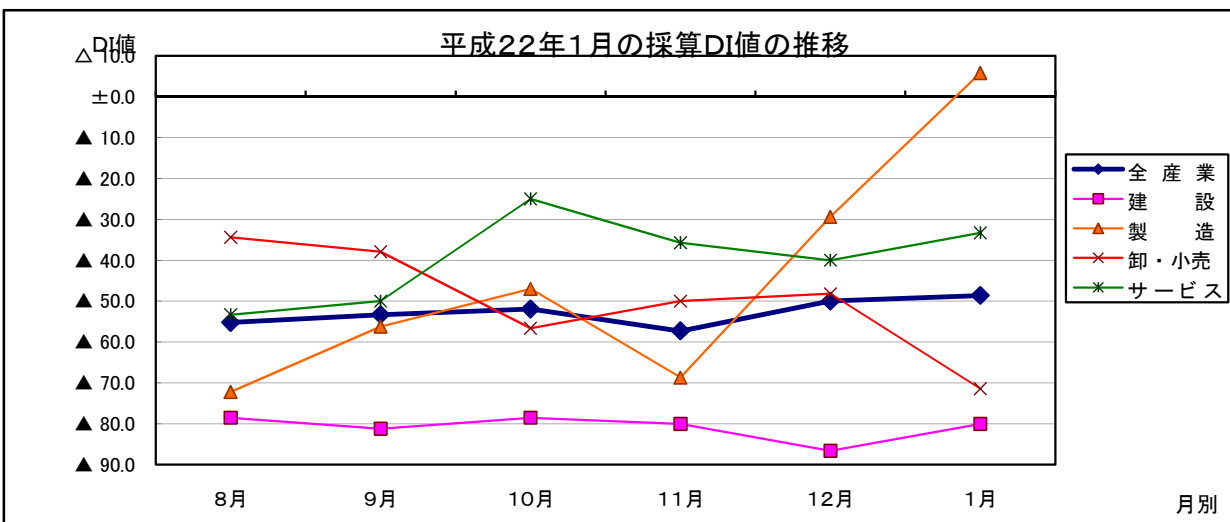
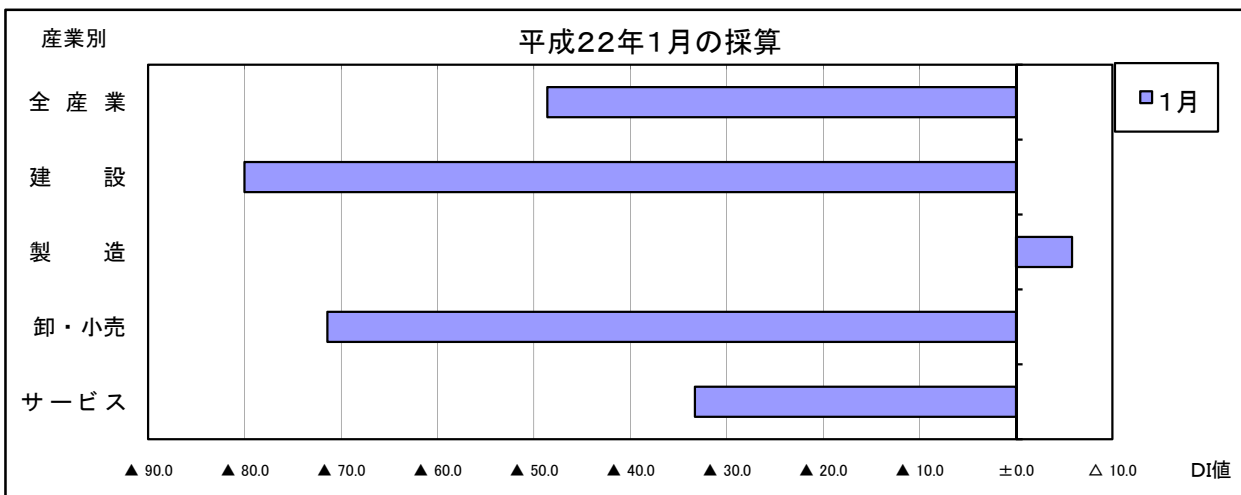
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△5.8(同▲29.4)であり、△35.2ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲40.0)、建設業▲80.0(同▲86.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲71.4(同▲48.2)であり、マイナス幅が▲23.2ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲40.2(前月水準▲47.3)となり、マイナス幅が△7.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲25.0(同▲66.6)、卸小売業▲42.8(同▲48.2)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△41.6ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲60.0(同▲53.3)、製造業▲29.4(同▲23.5)である。

平成22年1月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲55.2	▲53.3	▲51.9	▲57.3	▲50.0	▲48.6	▲40.2(▲47.3)
建設	▲78.5	▲81.2	▲78.5	▲80.0	▲86.6	▲80.0	▲60.0(▲53.3)
製造	▲72.2	▲56.2	▲47.0	▲68.7	▲29.4	△5.8	▲29.4(▲23.5)
卸・小売	▲34.4	▲37.9	▲56.6	▲50.0	▲48.2	▲71.4	▲42.8(▲48.2)
サービス	▲53.3	▲50.0	▲25.0	▲35.7	▲40.0	▲33.3	▲25.0(▲66.6)



【平成22年1月の仕入単価についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4.1(前月水準▲3.9)となり、マイナス幅が▲0.2ポイント拡大した。

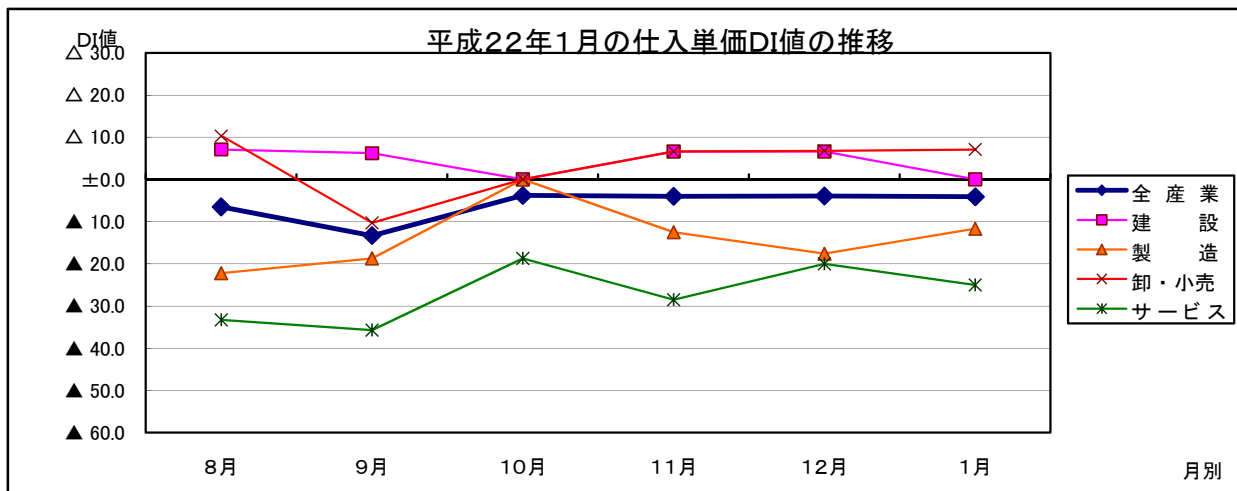
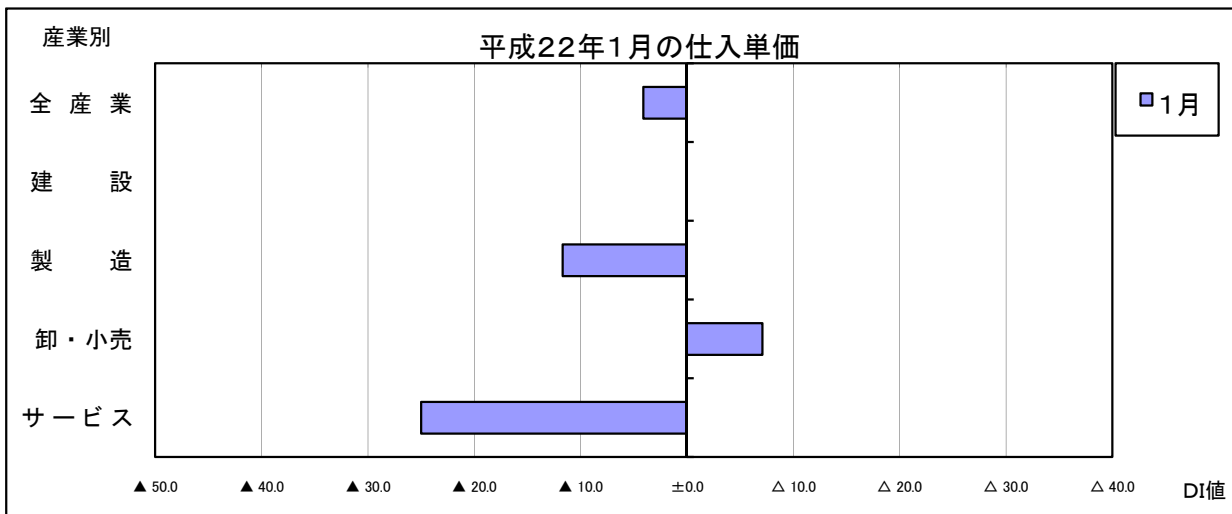
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、卸小売業△7.1(同△6.8)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲11.7(同▲17.6)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同△6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲25.0(同▲20.0)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.9(前月水準△2.6)となり、マイナス幅が▲9.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同△5.8)、建設業±0.0(同△6.6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、卸小売業▲7.1(同△6.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲25.0(同▲13.3)である。

平成22年1月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 8月	9月	10月	11月	12月	平成22年 1月	先行き見通し 2月～4月(1月～3月)
全産業	▲6.5	▲13.3	▲3.8	▲4.0	▲3.9	▲4.1	▲6.9(△2.6)
建設	△7.1	△6.2	±0.0	△6.6	△6.6	±0.0	±0.0(△6.6)
製造	▲22.2	▲18.7	±0.0	▲12.5	▲17.6	▲11.7	±0.0(△5.8)
卸・小売	△10.3	▲10.3	±0.0	△6.6	△6.8	△7.1	▲7.1(△6.8)
サービス	▲33.3	▲35.7	▲18.7	▲28.5	▲20.0	▲25.0	▲25.0(▲13.3)



【平成22年1月の従業員についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.1(前月水準▲9.2)となり、マイナス幅が▲1.9ポイント拡大した。

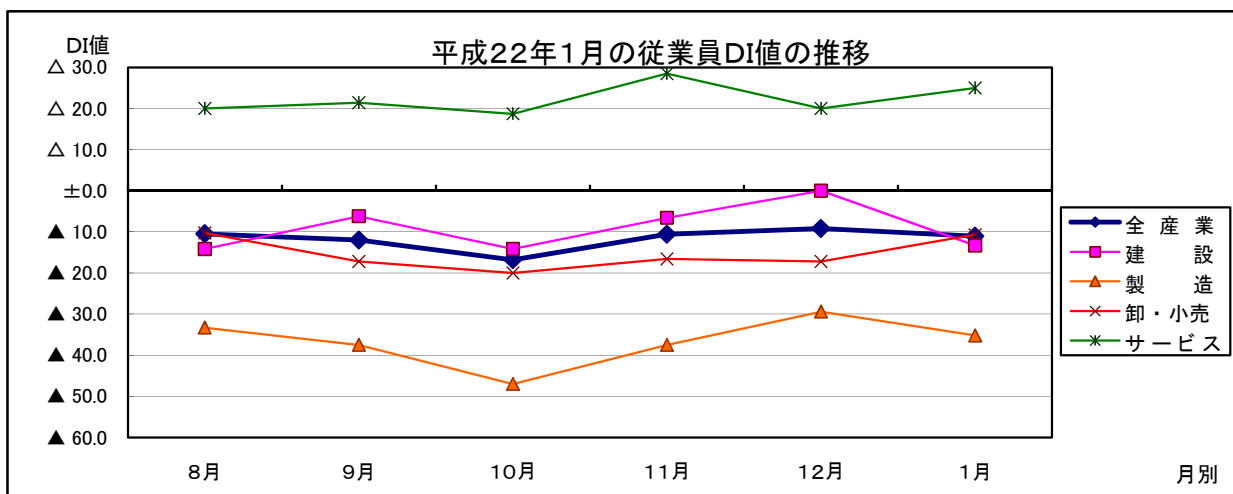
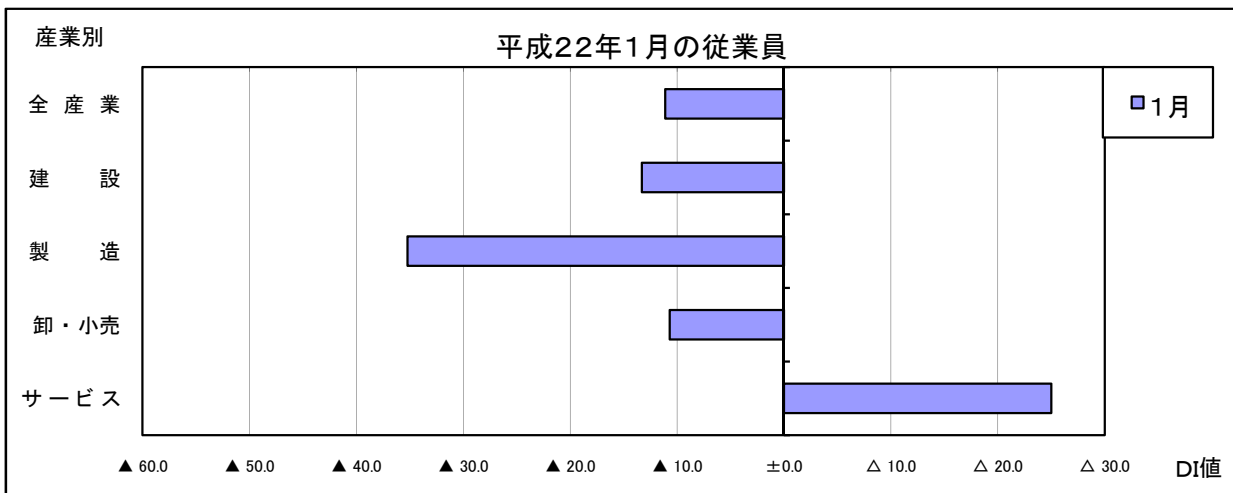
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△25.0(同△20.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲10.7(同▲17.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲13.3(同±0.0)、製造業▲35.2(同▲29.4)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.6(前月水準▲10.5)となり、マイナス幅が▲6.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△16.6(同△13.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲29.4(同▲35.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.0(同±0.0)、卸小売業▲21.4(同▲13.7)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲20.0ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成22年1月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 8月	9月	10月	11月	12月	平成22年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲ 10.5	▲ 12.0	▲ 16.8	▲ 10.6	▲ 9.2	▲ 11.1	▲ 16.6 (▲ 10.5)
建設	▲ 14.2	▲ 6.2	▲ 14.2	▲ 6.6	±0.0	▲ 13.3	▲ 20.0 (±0.0)
製造	▲ 33.3	▲ 37.5	▲ 47.0	▲ 37.5	▲ 29.4	▲ 35.2	▲ 29.4 (▲ 35.2)
卸・小売	▲ 10.3	▲ 17.2	▲ 20.0	▲ 16.6	▲ 17.2	▲ 10.7	▲ 21.4 (▲ 13.7)
サービス	△ 20.0	△ 21.4	△ 18.7	△ 28.5	△ 20.0	△ 25.0	△ 16.6 (△ 13.3)



【平成22年1月の資金繰りについての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.6(前月水準▲31.5)となり、マイナス幅が△7.9ポイント縮小した。

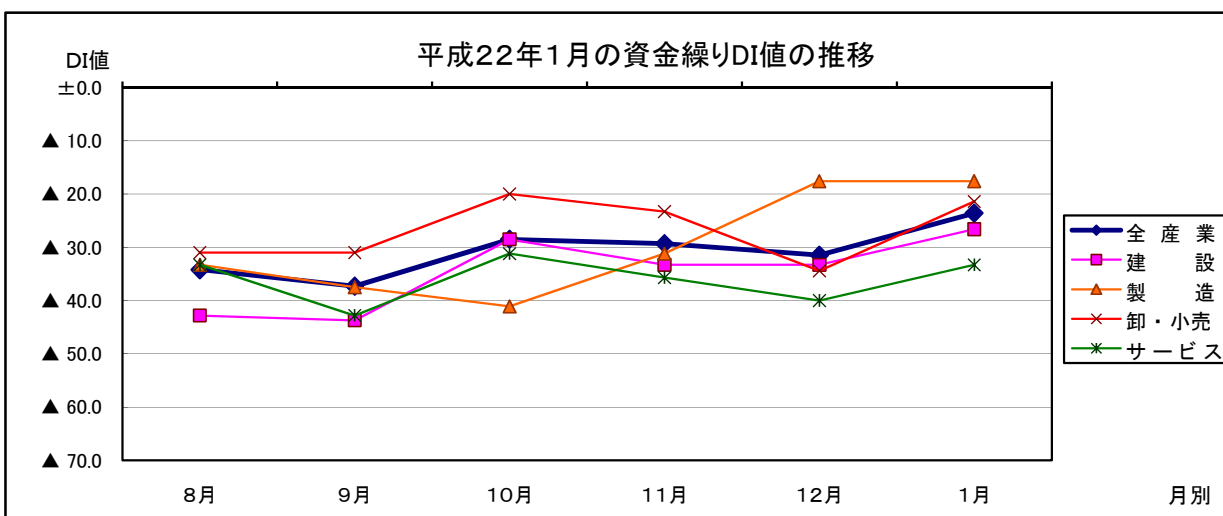
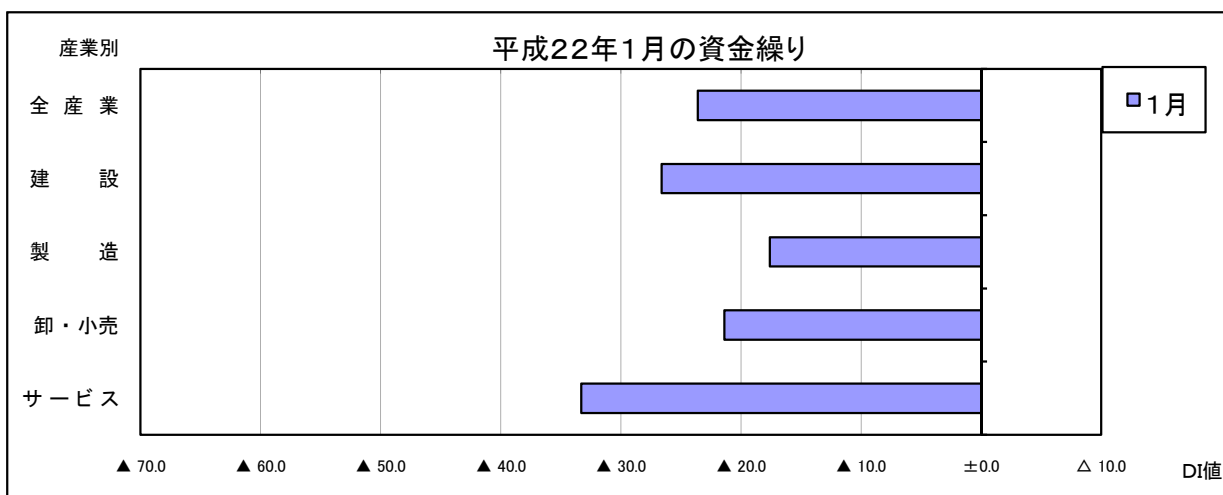
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲21.4(同▲34.4)、建設業▲26.6(同▲33.3)、サービス業▲33.3(同▲30.0)である。変らない業種は、製造業▲17.6(同▲17.6)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲26.3(前月水準▲31.5)となり、マイナス幅が△5.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲46.6)、卸小売業▲25.0(同▲31.0)、製造業▲17.6(同▲23.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲33.3(同▲26.6)である。

平成22年1月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成21年 8月	9月	10月	11月	12月	平成22年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲ 34.2	▲ 37.3	▲ 28.5	▲ 29.3	▲ 31.5	▲ 23.6	▲ 26.3 (▲ 31.5)
建設	▲ 42.8	▲ 43.7	▲ 28.5	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 26.6	▲ 33.3 (▲ 26.6)
製造	▲ 33.3	▲ 37.5	▲ 41.1	▲ 31.2	▲ 17.6	▲ 17.6	▲ 17.6 (▲ 23.5)
卸・小売	▲ 31.0	▲ 31.0	▲ 20.0	▲ 23.3	▲ 34.4	▲ 21.4	▲ 25.0 (▲ 31.0)
サービス	▲ 33.3	▲ 42.8	▲ 31.2	▲ 35.7	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 33.3 (▲ 46.6)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 51.3	▲ 36.1	▲ 48.6	▲ 40.2	▲ 4.1	▲ 6.9	▲ 11.1	▲ 16.6
建設	▲ 73.3	▲ 60.0	▲ 80.0	▲ 60.0	±0.0	±0.0	▲ 13.3	▲ 20.0
製造	▲ 11.7	▲ 35.2	△ 5.8	▲ 29.4	▲ 11.7	±0.0	▲ 35.2	▲ 29.4
卸・小売	▲ 67.8	▲ 25.0	▲ 71.4	▲ 42.8	△ 7.1	▲ 7.1	▲ 10.7	▲ 21.4
サービス	▲ 41.6	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	△ 25.0	△ 16.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 44.4	▲ 37.5	▲ 23.6	▲ 26.3
建設	▲ 53.3	▲ 33.3	▲ 26.6	▲ 33.3
製造	▲ 11.7	▲ 23.5	▲ 17.6	▲ 17.6
卸・小売	▲ 60.7	▲ 50.0	▲ 21.4	▲ 25.0
サービス	▲ 41.6	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3

【平成22年1月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	良い兆しはなにもありません 業界も変わらなければいけない。公共投資がこれほど多いのは日本だけ。 現状は適正な受注だが4月以降に不安を感じる。	好材料なし 業界改革 公共投資 適正受注 先行き不安	一般土木建築工事業 土木工事業(舗装、しゅんせつを除く) 板金・金物工事業
	1件の仕事を受注するためには、今まで以上に見積もり作成や交渉に時間がかかり、結果残業時間は長く人件費も多くなっています。それでも利幅はほとんどなく、採算減少になってきています。 工事価格・仕入れ単価の下落は落ち着いてきた。年度末(3月末)の工事元請け企業からくる連鎖倒産が心配。現況は末端の企業努力と犠牲にあるので早急な対策を望んでいる。	人件費増加 不採算 工事単価下落 仕入単価下落 連鎖倒産の不安 企業努力	管工事業(さく井を除く) 電気工事業
製造	受注は前年に比較して増加ではあるが、比較対象である前年の状況が底ではあるので、現在もまだまだ悪化の状況である。 ここ数年は年度末へ向けての完成物件が少なくなってきたため、平年月と売上がほぼ同じである。	前年比受注増加 業況悪化不変 完成物件減少 売上不変	その他の鉄鋼業 一般産業用機械設備製造業
	お客さまからの設備導入の声が多く、かつ低価格の要求も一層つよくなり、非常に厳しい状況が続いている。	設備導入減少 低価格要求 厳しい業況	その他の機械・同部分品製造業
卸小売	デスク上の経済対策と現場とでは、かなりずれがあると思います。 景況悪化の要因は、マクロでは少子高齢化による個人消費のボリュームの縮小が背景にあり、これに世界的なレベルでの景気の悪化、家計収入の停滞、デフレによる価格競争がその要因と考えます。経営上の課題としては、いかに収支バランスを図るかですが百貨店はマクロの商環境のなかで大変苦慮しており、経営管理手法や店舗オペレーションの改革を否応なく迫られている状況です。 経費の削減をさらに強化する。チラシ、配布枚数の削減や配布エリアの見直し。	経済対策のズレ 個人消費の縮小 デフレの悪循環 経営管理手法の改革	食料・飲料卸売業 百貨店
	デフレの悪循環が続き、安売り競争に巻き込まれている企業は売上採算ベースを割り込んでいるように思う。新しいイベント・フェアに力を入れている。 新年を迎えたが、青果物では年末からの厳しい寒さから野菜の成長が遅れており、一部のものは単価高となっています。果実は過剰感な品目が多く、堅調な取引から減少となっています。総体的には売り上げの減少となっています。昨今の激しい経済情勢はすべての企業に影響し、生き残るための戦略を早急に立案実行しなければならない。景気向上は深刻なデフレ不況から抜け出せないため、まだ消費の伸びは期待できない。	経費削減強化 広告費削減 デフレの悪循環 低価格競争 不採算	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの) 各種食料品小売業
	原油が高騰してきている。寒さが続くと高値基調の相場で落ち着く感あり。安値売り込みは相変わらずだが、仕入れコストを吸収する余力は乏しい。今は経費の点からもコストは確実に転嫁し金銭的にも体力を維持することが大切である	天候の影響 果実過剰 青果物不足 売上減少 デフレの悪循環 消費伸び悩み	食料・飲料卸売業
	デフレの影響が色濃く、収益を悪くしている。この状況はしばらく続くものと思われる。カジュアルな商品は若干動いているが、高額商品を中心に売り上げ不振である。	原油高騰 高値基調 コスト転嫁	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	1月度毎年盛況である2日の初売りは全店舗合計売上は昨年対100.7%と前年を上回る結果となったが、既存店だけをみると売上高は前年を下回った。その後のセールは買い控えにより前年を大きく下回る推移となり、昨年対93.5%と非常に厳しい結果。内容的には、午後から夕方にかけての入館が伸びず、OL顧客の慎重な買い回りが見られたことに加え、単品買いが目立ったことから、衣料品を中心に苦戦する店舗が多かった。セール終了後からは点灯はプロパー商材に切り替え、春物の早期実売に販売品目の独自路線の徹底で売り上げが好転してきた。	デフレの悪循環 収益悪化 売上不振 初売り盛況 既存店不振 買い控え 入店客数減少 衣料品苦戦	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの) 各種商品小売業
		販売品目の絞り込み 売上好転	書籍・文具小売業

【平成22年1月の業種別業界内トピックス】

サービス	新年会等の利用が前年比65%に落ち込んでいる 昨年の忘年会から新年会の予約は前年同様にはあったが、フリーのお客様の大きな減少があり。外食に関してお客様の利用回数「常連」が減っている。	新年会減少 宴会前年並み 外食減少	公衆浴場業 酒場・ビヤホール
------	--	-------------------------	-------------------

◎デフレの悪循環

- ・ 景況悪化の要因は、マクロでは少子高齢化による個人消費のボリュームの縮小が背景にあり、これに世界的なレベルでの景気の悪化、家計収入の停滞、デフレによる価格競争がその要因と考えます 百貨店
- ・ デフレの悪循環が続き、安売り競争に巻き込まれている企業は売上採算ベースを割り込んでいるように思う。新しいイベント・フェアに力を入れている 各種食料品小売業
- ・ 昨今の激しい経済情勢はすべての企業に影響し、生き残るための戦略を早急に立案実行しなければならない。景気向上は深刻なデフレ不況から抜け出せないため、まだ消費の伸びは期待できない 食料・飲料卸売業
- ・ デフレの影響が色濃く、収益を悪くしている。この状況はしばらく続くものと思われる。カジュアルな商品は若干動いているが、高額商品を中心に売り上げ不振である。 その他の各種商品小売業

◎売上減少

- ・ セールは買い控えにより前年を大きく下回る推移となり、昨年対93.5%と非常に厳しい結果。内容的には、午後から夕方にかけての入館が伸びず、OL顧客の慎重な買い回りが見られたことに加え、単品買いが目立ったことから、衣料品を中心に苦戦する店舗が多かった。 各種商品小売業
- ・ 新年会等の利用が前年比65%に落ち込んでいる 公衆浴場業

◎先行き不安

- ・ 現状は適正な受注だが4月以降に不安を感じる。 板金・金物工事業
- ・ 工事価格・仕入れ単価の下落は落ち着いてきた。年度末(3月末)の工事元請け企業からくる連鎖倒産が心配。現況は末端の企業努力と犠牲にあるので早急な対策を望んでいる。 電気工事業











平成22年1月のCCI LOBOとの比較



- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲44.4に対し、「CCI-LOBO」が▲62.3で、柏の方がマイナス幅が17.9ポイント小さい。すべての業種において「柏の景気」の方が良く、建設業・製造業・サービス業はいずれも10ポイント以上良い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲51.3に対し、「CCI-LOBO」が▲56.1で、柏の方がマイナス幅が4.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業で、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲48.6に対し、「CCI-LOBO」が▲54.9で、柏のほうマイナス幅が6.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・卸小売業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲4.1に対し、「CCI-LOBO」が▲2.0で、柏の方がマイナス幅が2.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業・卸小売業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・サービス業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.1に対し、「CCI-LOBO」が▲18.6で、柏の方がマイナス幅が7.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.6に対し、「CCI-LOBO」が▲37.9で、柏の方がマイナス幅が14.3ポイント小さい。すべての業種において「柏の景気」の方が良く、建設業・製造業・卸小売業は10ポイント以上良い。











平成22年1月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較








景気天気図					
	特に好調 DI > 50	好調 50 > DI > 25	まあまあ 25 > DI > 0	不振 0 > DI > -25	極めて不振 DI < -25










業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 44.4	 53.3	 11.7	 60.7	 41.6
CCI LOBO	 62.3	 63.9	 58.0	 69.5	 59.1


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 51.3	 73.3	 11.7	 67.8	 41.6
CCI LOBO	 56.1	 52.1	 51.8	 61.5	 53.1


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 48.6	 80.0	 5.8	 71.4	 33.3
CCI LOBO	 54.9	 58.4	 51.7	 58.0	 51.6

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 4.1	 ±0.0	 11.7	 7.1	 25.0
CCI LOBO	 2.0	 12.4	 6.5	 6.5	 6.3

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 11.1	 13.3	 35.2	 10.7	 25.0
CCI LOBO	 18.6	 28.0	 25.9	 12.3	 9.3

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 23.6	 26.6	 17.6	 21.4	 33.3
CCI LOBO	 37.9	 44.9	 44.2	 33.6	 35.9

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(1月の調査結果のポイント)

調査期間：平成22年1月18日～22日

調査対象：柏市内107事業所及び組合にヒアリング、回答数72

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲53.9	▲57.1	▲50.0	▲62.0	▲40.0
9月	▲56.0	▲50.0	▲62.5	▲62.0	▲42.8
10月	▲57.1	▲71.4	▲58.8	▲63.3	▲31.2
11月	▲62.6	▲66.6	▲75.0	▲66.6	▲35.7
12月	▲59.2	▲73.3	▲41.1	▲68.9	▲46.6
1月	▲44.4	▲53.3	▲11.7	▲60.7	▲41.6
見通し	▲37.5	▲33.3	▲23.5	▲50.0	▲33.3

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iは大幅にマイナス幅縮小 依然としてデフレの影響あり

1月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、44.4(前月水準59.2)となり、マイナス幅が14.8ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、製造業11.7(同41.1)、建設業53.3(同73.3)、卸小売業60.7(同68.9)、サービス業41.6(同35.7)。

6(同46.6)であり、特に製造業はマイナス幅が29.4ポイントと大幅に縮小した。

【建設業】では、「良い兆しはなにもありません」「一般土木建築工事業」も業界も変わらなければいけない。公共投資がこれほど多いのは日本だけ(土木工事業)。「1件の仕事を受注するために、今まで以上に見積もり作成や交渉に時間がかかり、結果残業時間は長く人件費も多くなってきています。それでも利幅はほとんどなく採算減少になってきています(管工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「受注は前年と比較して増加ではあるが、比較対象である前年の状況が底ではあるので、現在もまだまだ悪化の状況である(その他の鉄鋼業)」「ここ数年は年度末へ向けての完成物件が少なくなってきたため、平年月と売上がほぼ同じである(一般産業用機械設備製造業)」「お客さまからの設備導入の声も少なく、かつ低価格の要求も一層つよくなり、非常に厳しい状況が続いている(その他の機械・同部品品製造業)などの声が上がってきた。

【卸小売業】では、「デスク上の経済対策と現場とは、かなりずれがあると思います(食

料・飲料卸売業)」「経費の削減をさらに強化する。チラシ、配布枚数の削減や配布エリアの見直し(その他の各種商甲小売業)」「原油が再高騰してきている。寒さが続く高値基調の相場で落ち着く感あり。安値売り込みは相変わらずだが、仕入れコストを吸収する余力は乏しい。今は経費の点からコストは確実に転嫁し金銭的にも体力を維持することが大切である(燃料小売業)」「販売品目の独自路線の徹底で売り上げが好転してきた(書籍・文房具小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「昨年の忘年会から新年会の予約は前年同様にはあったが、フリーのお客様の大きな減少があり。外食に関してお客様の利用回数・常連」が減っている(酒場・ビヤホール)とコメントがあった。

1月の景気キーワード

デフレの悪循環

各業種から、「景況悪化の要因は、マクロでは少子高齢化による個人消費のボリュームの縮小が背景にあり、これに世界的なレベルでの景気の悪化、家計収入の停滞、デフレによる価格競争がその要因と考えます(百貨店)」「デフレの悪循環が続ぎ、安売り競争に巻き込ま

れている企業は売上採算ペーすを割り込んでいるように思う。新しいイベント・フェアに力を入れている(各種食料品小売業)」「昨今の激しい経済情勢はすべての企業に影響し、生き残るための戦略を早急に立案実行しなければならぬ。景気向上は深刻なデフレ不況から抜け出せないため、まだ消費の伸びは期待できない(食料・飲料卸売業)」「デフレの影響が色濃く収益を悪くしている。この状況はしばらく続くものと思われる。カジアルな商品は若干動いているが、高額商品を中心に売り上げ不振である(その他の各種商品小売業)などの声が上がっていた。

【売上減少】各業種から、「セールは買い控えにより前年を大きく下回る推移となり、昨年対93.5%と非常に厳しい結果。内容的には、午後から夕方にかけての入館が伸びず、OL顧客の慎重な買い回りが見られたことに加え、単品買いが目立ったことから、衣料品を中心に苦戦する店舗が多かった(各種商品小売業)」「新年会等の利用が前年比65%に落ち込んでいる(公衆浴場業)などのコメントがあった。

先行き不安

各業種から、「現状は適正な受注だが4月以降に不安を感じる(板金・金物工事業)」「工事価格・仕入れ単価の下落は落ち着いてきた。年度末(3月末)の工事元請け企業からくる連鎖倒産が心配。現況は末端の企業努力と犠牲にあるので早急な対策を望んでいる(電気工事業)などのコメントがあげられた。

CCI・LOBOJの比較

全産業合計では、「柏の景気」が44.4に対し、「CCI・LOBOJ」が62.3で、柏の方がマイナス幅が17.9ポイント小さい。すべての業種において「柏の景気」の方が良く、建設業・製造業・サービス業はいずれも10ポイント以上良い。

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(1月速報)

調査期間：平成22年1月18日～22日

調査対象：全国の407商工会議所が2623業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIはマイナス幅は縮小も依然厳しい水準で推移

1月の業況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比)は、以下同じ()は、62.3。前月に比べ+1.5ポイントと、2カ月振りにマイナス幅が縮小した。各地からは年末を乗り切った安堵の声も聞かれたが、業況判断は「悪化」から「不変」への変更が主で、実態は横ばい状態とみられる。

【建設業】「年度末までは手持ち工事でのげろが、工事の終了と同時に倒産・廃業の増加を危惧している。民間工事も過去最低で推移している」(一般工事業)、「景気回復の予想が立たない。同業者は一樣に仕事がない状態ではばらばらこの状態が続くと予想している」(土木工事業)、「業界は倒産や廃業の危機に陥っている。政府は、農業等への異業種転換の方針を早期に示してほしい」(建築事業)

衣食住に関する商品すべてにおいて販売価格が下落しており、先行きも厳しい状況が続く(百貨店)、「1月初旬の初売りやバーゲンは好調だったが後が続かず、売上は対前年比でマイナスになる見込み」(商店街)、「売上の減少に歯止めがからず、採算は悪化し続けている。チラシで宣伝をしても思うように売上に繋がらない」(その他の小売業)

【サービス業】「個人タクシー事業者の廃業が徐々に増加している」(他事業サービス業)、「一般利用者に加え、田高の影響で、外国人観光客も減少。二番底を懸念」(旅館)、「地元客の来店頻度は落ち込んだが、観光客の増加により1月は昨年並みの売上を確保した。2月も昨年に比べ若干予約が多い」(食堂・レストラン)

業者に移り、仕入単価の上昇を販売価格に反映できない(弘前・農畜産水産物卸売業)、「売上は前年よりさらに悪化しており、デフレの影響を感じている。近年にない異常な状態という印象がある」(塩尻・百貨店)、「売上減少傾向にあり、低価格帯のプランで作るしかない状況。老舗旅館が廃業するなど、長引く景気低迷により不安感が増している」(福島・旅館)

業況は、製造業を中心に、広範囲に生産水準の下げ止まり感が出ているものの、大幅な需要不足によるデフレが深刻化しているうえ、雇用・設備の過剰感、田高の長期化、高水準で推移する倒産件数も続いており、依然厳しい状況となっている。

【卸売業】「売掛金回収までのつなぎ資金の原資が底をついている。現状が続いても、景気が回復しても厳しい」(農畜産水産物卸売業)、「デフレスバイラルの状況にあり、特に衣料品については顕著」(各種商品卸売業)、「民需市場は引き続き業種を問わず不透明。経費節減につながるIT機器を細やかに提案していかなければならぬ」と考えている(食料・飲料卸売業)

【サービス業】「個人タクシー事業者の廃業が徐々に増加している」(他事業サービス業)、「一般利用者に加え、田高の影響で、外国人観光客も減少。二番底を懸念」(旅館)、「地元客の来店頻度は落ち込んだが、観光客の増加により1月は昨年並みの売上を確保した。2月も昨年に比べ若干予約が多い」(食堂・レストラン)

業者に移り、仕入単価の上昇を販売価格に反映できない(弘前・農畜産水産物卸売業)、「売上は前年よりさらに悪化しており、デフレの影響を感じている。近年にない異常な状態という印象がある」(塩尻・百貨店)、「売上減少傾向にあり、低価格帯のプランで作るしかない状況。老舗旅館が廃業するなど、長引く景気低迷により不安感が増している」(福島・旅館)

業者に移り、仕入単価の上昇を販売価格に反映できない(弘前・農畜産水産物卸売業)、「売上は前年よりさらに悪化しており、デフレの影響を感じている。近年にない異常な状態という印象がある」(塩尻・百貨店)、「売上減少傾向にあり、低価格帯のプランで作るしかない状況。老舗旅館が廃業するなど、長引く景気低迷により不安感が増している」(福島・旅館)

先行きについては、51.8(前月比+5.0ポイント)と、5カ月振りにマイナス幅が縮小した。新興国向け輸出の増加等により製造業を中心に業況感が持ち直しているが、デフレによる販売価格の低下、雇用・所得不安に伴う個人消費・住宅建設の減退、公共工事の減少懸念、田高の影響などから、先行きへの不安感は依然強い。

【卸売業】「売掛金回収までのつなぎ資金の原資が底をついている。現状が続いても、景気が回復しても厳しい」(農畜産水産物卸売業)、「デフレスバイラルの状況にあり、特に衣料品については顕著」(各種商品卸売業)、「民需市場は引き続き業種を問わず不透明。経費節減につながるIT機器を細やかに提案していかなければならぬ」と考えている(食料・飲料卸売業)

業者に移り、仕入単価の上昇を販売価格に反映できない(弘前・農畜産水産物卸売業)、「売上は前年よりさらに悪化しており、デフレの影響を感じている。近年にない異常な状態という印象がある」(塩尻・百貨店)、「売上減少傾向にあり、低価格帯のプランで作るしかない状況。老舗旅館が廃業するなど、長引く景気低迷により不安感が増している」(福島・旅館)

業者に移り、仕入単価の上昇を販売価格に反映できない(弘前・農畜産水産物卸売業)、「売上は前年よりさらに悪化しており、デフレの影響を感じている。近年にない異常な状態という印象がある」(塩尻・百貨店)、「売上減少傾向にあり、低価格帯のプランで作るしかない状況。老舗旅館が廃業するなど、長引く景気低迷により不安感が増している」(福島・旅館)

業者に移り、仕入単価の上昇を販売価格に反映できない(弘前・農畜産水産物卸売業)、「売上は前年よりさらに悪化しており、デフレの影響を感じている。近年にない異常な状態という印象がある」(塩尻・百貨店)、「売上減少傾向にあり、低価格帯のプランで作るしかない状況。老舗旅館が廃業するなど、長引く景気低迷により不安感が増している」(福島・旅館)

一月のキーワード

デフレの深刻化

先行きへの不安感は依然強い。各地からは、景気回復に資する公共投資や、昨年12月8日に発表された緊急経済対策の早期執行を求める声が多い。

【卸売業】「売掛金回収までのつなぎ資金の原資が底をついている。現状が続いても、景気が回復しても厳しい」(農畜産水産物卸売業)、「デフレスバイラルの状況にあり、特に衣料品については顕著」(各種商品卸売業)、「民需市場は引き続き業種を問わず不透明。経費節減につながるIT機器を細やかに提案していかなければならぬ」と考えている(食料・飲料卸売業)

販売価格が下がり、採算が悪化している企業が多くデフレの深刻化による悪影響を訴える声が多く寄せられた。「企業の業績不振による採算割れ覚悟の受注が多くなっている」(松戸・建設建築用金属機械製造業)、「販売価格の下げ圧力が高まっているが、仕入価格は下げ止まりつつあり、採算が悪化している」(横浜・農畜産水産物卸売業)、「価格決定権が小売

業者に移り、仕入単価の上昇を販売価格に反映できない(弘前・農畜産水産物卸売業)、「売上は前年よりさらに悪化しており、デフレの影響を感じている。近年にない異常な状態という印象がある」(塩尻・百貨店)、「売上減少傾向にあり、低価格帯のプランで作るしかない状況。老舗旅館が廃業するなど、長引く景気低迷により不安感が増している」(福島・旅館)

業者に移り、仕入単価の上昇を販売価格に反映できない(弘前・農畜産水産物卸売業)、「売上は前年よりさらに悪化しており、デフレの影響を感じている。近年にない異常な状態という印象がある」(塩尻・百貨店)、「売上減少傾向にあり、低価格帯のプランで作るしかない状況。老舗旅館が廃業するなど、長引く景気低迷により不安感が増している」(福島・旅館)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
8月	▲59.6	▲56.3	▲62.9	▲61.1	▲60.7	▲56.3
9月	▲61.4	▲57.5	▲67.0	▲56.8	▲64.0	▲56.9
10月	▲60.6	▲64.1	▲62.4	▲65.4	▲62.9	▲51.8
11月	▲60.0	▲55.5	▲60.2	▲67.7	▲64.3	▲54.8
12月	▲63.8	▲62.4	▲59.4	▲67.1	▲71.7	▲58.6
1月	▲62.3	▲63.9	▲58.0	▲58.3	▲69.5	▲59.1
見通し	▲51.8	▲61.6	▲41.5	▲50.0	▲56.2	▲51.8

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

り、雇用情勢は依然として厳しいという声が多い。「ボーナスの減額やカットを行った企業が複数社ある。来期も厳しい業況は変わらない」(唐津・その他の機械製造業)、「経営状況が厳しく、各社一時帰休等で対応している」(館山・金属加工機械製造業)、「業種により依然減産の動きが見られるなど、断を許さない。作業時間調整は続き、雇用環境に厳しさが広がっている」(新居浜・一般産業用機械製造業)、「業界では、店舗数の削減、早期希望退職による人員削減等、経営のスリム化に着手する企業が増加」(宇都宮・百貨店)、「年末廃業が多かった」(久留米・他の一般飲食店)